



1軸
貞和3(1347)年写
縦24.6cm 横367.0cm



◆大河ドラマで注目される北条家の「家訓」

貴族や武士、商人などによる子供への戒めが一族や子孫たちへの「家訓」となつて受け継がれていくことがあります。

『六波羅殿御家訓』は現代まで伝わっている武士の家訓としては最も古い時期のもので、作者は北条重時(一一九八〜一二六二)。

彼の父は、鎌倉幕府第二代執権で二〇二二年大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の主人公北条義時、母は比企朝宗の娘です。重時は様々な幕府の要職を務め、中でも六波羅探題北方を十七年間務めていたことから、「六波羅殿」と呼ばれています。

この家訓は全四十三箇条からなっており、重時が息子に宛てたものです。内容を見ると、家族や家来との関わり方から宴会や物品の受贈の心得まで多岐にわたりますが、その中には現代にも通じるものもあります。

例えば「妻子や親族には笑いかけ、怒っている姿を見せてはならない」「たとえ可愛がつている部下がいても表面上に出して差別をしてはならない」「人から手紙を貰ったら返事をしなさい」といった教訓は、現代の家庭や社会生活に役に立つものでしょう。

平安末期に源氏が平家を滅ぼした後、源頼朝が対立した弟の義経を討つたこ

とは有名ですが、鎌倉幕府成立後も幕府内で対立した一族が滅ぼされる事件が起きます。重時も無縁ではなく、母の実家である比企氏一族が滅ぼされています。このような権力争いは北条氏一族内でも続きます。

そのような時代の中にあつても、家訓のおかげか、重時の子女たちは対立することなくそれぞれの家を立ち上げ、活躍していきます。中でも娘の一人は北条氏の本家に嫁ぎ、後に第八代執権となる北条時宗を生むこととなります。

掲出資料は、南北朝時代に書き写されたものですが、現存する唯一の古写本です。(天理図書館 高室慶助)

<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>
◇平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
○6月の休館日: 5日・12日・19日・30日
(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)
※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。

▶【ろくはらどのごかくん】